

財政通信 No.35

こんにちは。財政家長です。

先日、令和2年度の予算要求状況をホームページで公表しました。

一般会計の各課からの要求額は

歳入で、249億2800万円

歳出で、260億5200万円

予算要求段階での収支のギャップは11億2400万円でした。

今年度の収支ギャップは約25億円だったので、予算要求時点での収支ギャップは14億円減少したことになります。

これは一般行政経費(本年度ベース6%削減)の「部単位での枠配分による予算要求」の成果だと思えます！

みなさんの努力のおかげです！

部長をはじめとしたヒアリングでは、削減のための並々ならぬ努力をうかがい知ることができました。

乾いた雑巾を絞るように一つ一つの経費を絞った〇〇〇部

事業を大胆に見直した△△△部

歳入の大幅増を見込んだ◇◇◇部

特別枠を活用し次年度以降に期待する□□□部

などなど

さてこの11億円の収支ギャップ、全額を一般財源基金(財政調整基金及び減債基金)の取り崩しで補填すると、3年で枯渇してしまいます。

予算説明会でお話したように、一般財源基金の取り崩しは4.3億円を見込んでいます。これは決算余剰金で取り崩しを回避できるかもしれないぎりぎりの額です。

一般行政経費の枠配分については、枠内に一般行政経費を納めることができました。しかし、今後削減が見込まれる、または制度改正等の特殊事情があるなどで、6%の

削減額から控除した額があるので、実際は、枠配分を1.9億円超過しています。

これらを除いた収支ギャップは、5億円
これを何とかやりくりして、予算を組むしかありません。

特定目的基金や起債などで財源を確保したり
投資的経費のうち、アクションプラン搭載事業以外の修繕料や備品購入費などを見直したり、
人件費や社会保障費の精査などで、極力予算計上額を圧縮したり、

あとは、大変言いにくいところですが、一般行政経費についても、相談させていただく
かもしれません。

とにかくあらゆる手段を駆使して何とかしなければいけません。

みなさん、財政課の予算担当者が相談に行った時には、
「6%の枠内に抑えたんだから、もう削れるところはないよ！」とか
「枠配分経費は、査定なしって言ったよね？」
などと言わずに、ぜひ担当者の話を聞いてやってください。
一緒に考えてください。
よろしく願いいたします。

まだまだ予算編成作業は続きます。財政課はこれからが勝負です。
担当査定を経て、予算の全体像が見えてくるのは20日過ぎでしょうか。
内示は臨時庁議を経て25日を予定しています。

暖かい春が来ることを信じて、がんばってます。

寒くなりますのでみなさんも風邪などひかないように、お気をつけください。

以上、財政家長でした。